

## 岩手県金融経済概況

### 1. 概況

県内の景気は、全体としてみればなお持ち直し傾向を続けている。しかしながら、一部に足踏みを示す分野もみられはじめている。

最終需要の動向をみると、個人消費は、所得面でのゆるやかな改善に支えられ、持ち直し傾向にある。また、住宅投資にも持ち直しの動きがみられる。一方、公共投資はならしてみれば前年を下回っており、設備投資における持ち直しの動きも一頃に比べ勢いがみられなくなっている。

この間、生産は、今夏をピークに、秋口以降、若干低下している。一方、雇用情勢面では、改善に向けた動きが続いている。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、各種政策の影響や天候要因から区々の動きとなっているが、全体としてみると、所得面でのゆるやかな改善を背景に、持ち直し傾向にある。

#### (大型小売店売上高)

家庭用品・雑貨など値ごろ感のある商品を中心とした持ち直しの動きが続く中、10月央以降の気温低下につれ、秋・冬物衣料品や防寒具などに動意がみられたことも加わり、10月の百貨店売上高は、20年3月以来、約2年半ぶりに前年を上回った。

また、スーパーでも、前月末にみられた煙草駆け込み需要の反動減にもかかわらず、食料品全般の堅調な動きに支えられて、10月の既存店売上高は、前月に続き、前年を上回った(2カ月連続で前年を上回ったのは、20年4月以来、約2年半ぶり)。

#### (家電量販店売上高)

家電販売は、12月初からのエコポイント対象商品限定化の前に、薄型テレビや冷蔵庫等への駆け込み需要が大きくみられたことから、全体でも非常に好調な動きとなっている。

(新車登録台数)

新車登録台数は、エコカー補助金の終了(9月上旬)に伴い、大幅に減少している。

(2) 公共投資

公共工事請負金額は、11月単月では前年を上回ったが、10～11月合計で見ると前年を下回っている。

(3) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家が年明け以降ほぼ毎月前年を上回っているほか、10月については、貸家も前年に比べ増加し、全体でも前年を上回るなど、持ち直しの動きがみられる。

(4) 設備投資

2010年度の設備投資計画(9月短観調査結果\*)は、製造業(とくに加工業種)を中心に、前年を大幅に上回る計画となっている(2008年度並みの投資金額)が、前回(6月)調査時に比べ、ほとんど上積みの動きがみられていない。

\* 2010年度計画・前年度比(カッコ内は前回調査比修正率)

製造業	+73.5% ( 1.8%ポイント)
非製造業	+12.3% (+13.5%ポイント)
全産業	+56.6% (+0.9%ポイント)

### 3. 生産動向

生産は、今夏まで増勢を続けたあと、秋口以降、若干低下している。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、今夏以降、輸出向けを中心とした受注減少を映じて、生産水準を引き下げつつある。

(輸送機械)

自動車・同部品は、国内向けがエコカー補助金の終了から大幅な減少となる中、輸出向けにも勢いがみられず、今夏までに比べ、生産水準を低下させている。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジア諸国を中心とした受注好調が続いており、フル操業に近い状況にある。

建設機械部品や工作機械でも、国内外からの受注が好調で、リーマン・ショック直前に近い水準の生産を続けている。

(その他)

窯業・土石、木材・木製品は、需要にさしたる盛り上がりが見られないことから、概ね前年並みとなっている。鉄鋼では、新興国からの需要に左右されるかたちで、一進一退を続けている。食料品は、猛暑・残暑効果の剥落から、再び前年並みの生産に戻りつつある。

#### 4. 雇用・所得の動向

10月の有効求人倍率(季節調整値)は0.47倍と、前月(0.46倍)に比べ上昇し、約2年ぶりの水準となった(20年11月0.48倍 21年5~8月0.32倍<ボトム> 22年10月0.47倍)。

また、10月の新規求人倍率(同上)は0.85倍と、前月に比べ上昇し、直近ピークの8月ないし約2年前並みの水準となった(20年7月0.89倍 21年1、6月0.63倍<ボトム> 22年8月0.85倍 9月0.81倍 10月0.85倍)。

この間、雇用者所得は、雇用者数は引続き前年を下回っているが、一人当たり名目賃金の増加(所定外労働時間の増加)に支えられるかたちで、ゆるやかな改善傾向を続けている。

#### 5. 企業倒産

11月の企業倒産(負債総額10百万円以上)は、件数(6件)、負債総額(13億62百万円)ともに、前年(4件、4億54百万円)を上回った。

#### 6. 金融面の動向

預金動向は、法人預金の伸び率が縮小しているものの、個人預金の堅調に支えられ、全体では前年を上回って推移している。

貸出動向は、住宅ローン等個人向けが伸び悩む中、法人向けが減少していることから、全体でも、6カ月連続で前年を下回り、しかも前年比マイナス幅は月を追うにつれ拡大しつつある。

この間、貸出約定平均金利は、6月以降、5カ月連続で低下している。

以上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL : 019-624-3622 (代) <a href="http://www3.boj.or.jp/morioka/">http://www3.boj.or.jp/morioka/</a>
--